



## 世界における物価価値の変化と産業の転換

令和7年4月18日

黒田インターナショナル コンサルティング LLC

黒田 毅

これら国内における物価上昇は、海外における豊かな資金力において、彼らの有する大きな購買力が、これら物価上昇というインフレーションを与えるものである。

これらはグローバル経済の統一性が、世界における全ての経済環境において統一した基準において経済の再編を与えるものである。

これらは経済における生産性と新しい技術基準、資本力における金融の構築が世界においてその統一性を求める事において経済がその今日の技術革新とともに完全に新たな現実へ転換しているのである。

これらにおいて留意されるべきは、世界における金融資本である。彼らの有する資本力が今日の為替基準と物価基準を与えているのである。

これらは資本と金融が経済を決定するという現実である。しかし産業と生産という経済の本質から判断を有するとき異なる判断が与えられるのである。

しかし経済は本質的に人々の生活の需要において自己を有するものであり、これらは政治の構築などとともに、需要価値の形成を、貨幣制度において有するのである。

しかし今日経済を支配するのは金融とその資本力である。これら資本の移動が貨幣価値を与え、経済の進歩を与えるのである。

これらは自由経済システムという無限の自由の背後の現実なのである。これらにおいてグローバルバリエーションが与えられるものである。

これらは企業が対面する新たな変化であり、頂点には、先端産業が存在するのである。これら現実に対してこれら基準における企業経営の実現が唯一、企業の存続を与えることは真実なのである。



これらはグローバル基準における経営への転換であり、それらがグローバル基準における製品価格を与えることで、今日のインフレスパイラルが形成されるのである。

また、これらの終焉は、世界における統一基準における経済の統治である。それら変化はその収束まで、全ての混乱とともに自己を与える事になるはずである。

これら判断は企業においてグローバル基準に準じた自己経営の構築を絶対的な必題として求められるのである。